

<S53.10.31 消防危 140 号>

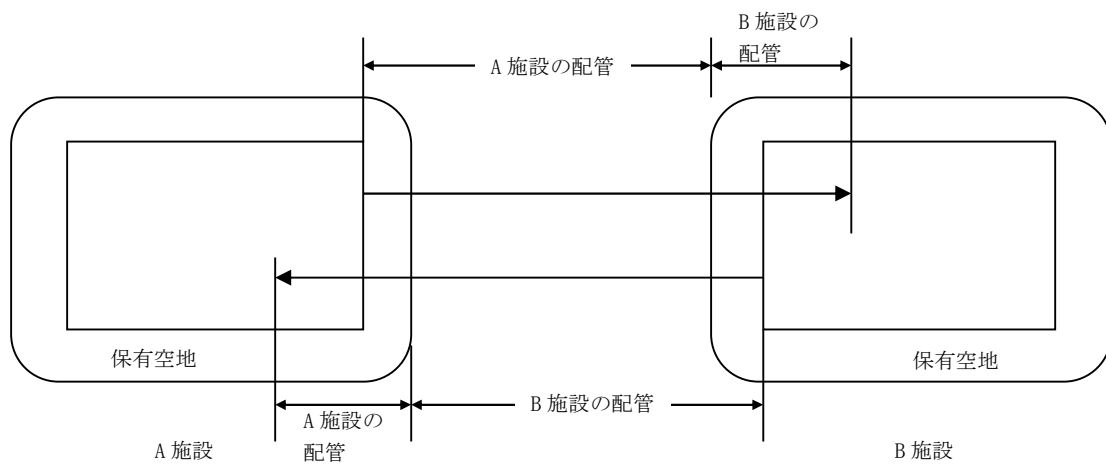
危険物施設間の区分例（移送取扱所を除く。）

危険物配管等により危険物施設が相互に接続される場合の危険物施設の区分は、次の例によること。なお、危険物は主として A 施設から B 施設に移送されるものとする。

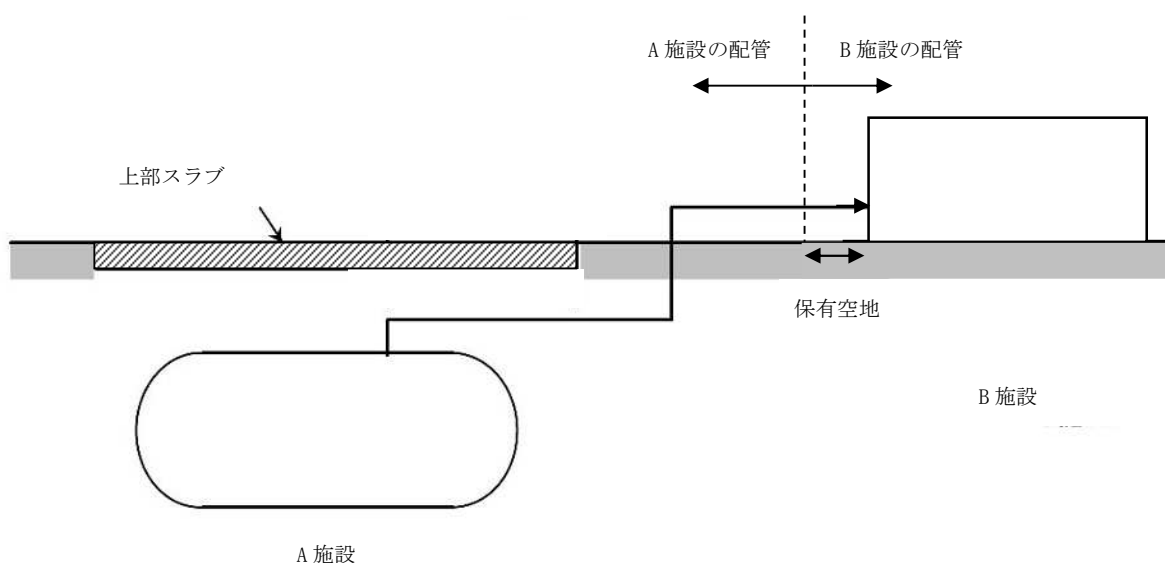
1 政令危険物施設相互間

次の各図の例により区分する。

- (1) B 施設が製造所又は一般取扱所の場合、B 施設の保有空地直近の弁、フランジ等までを A 施設とする。



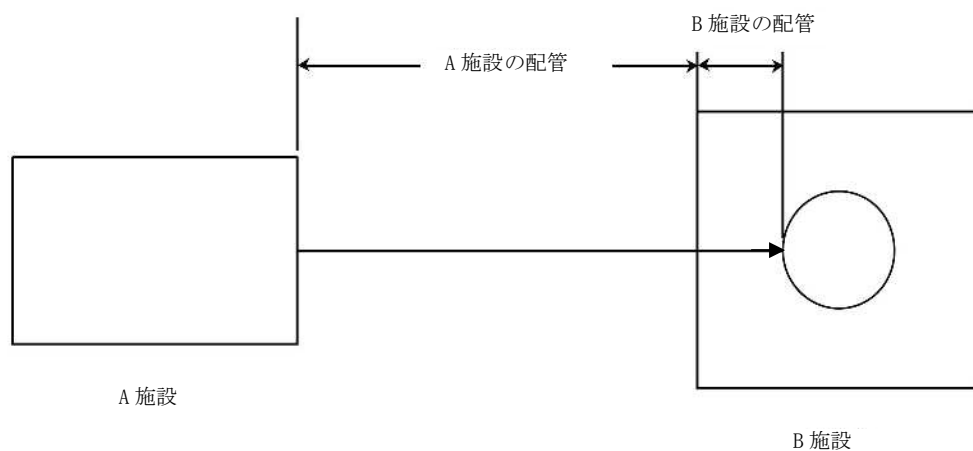
第 1 図



第 2 図

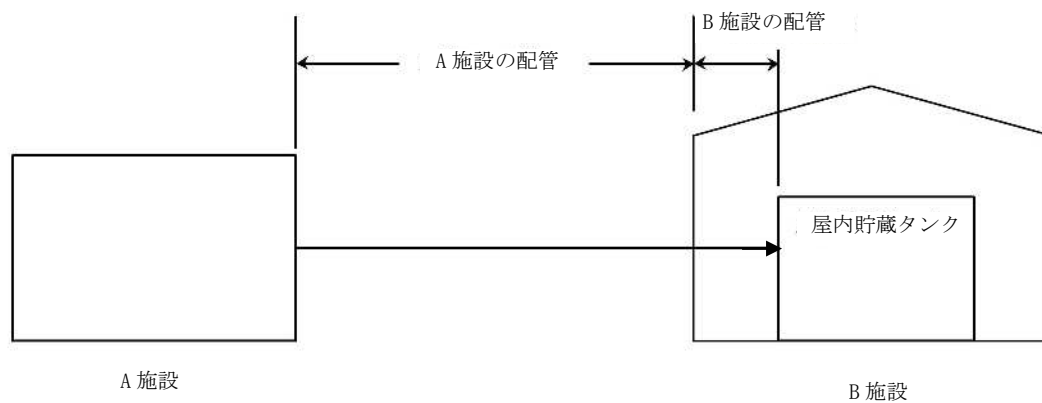
別記 1

- (2) B 施設が屋外タンク貯蔵所の場合、当該屋外タンク貯蔵所の防油堤直近の弁、フランジ等までを A 施設とする。



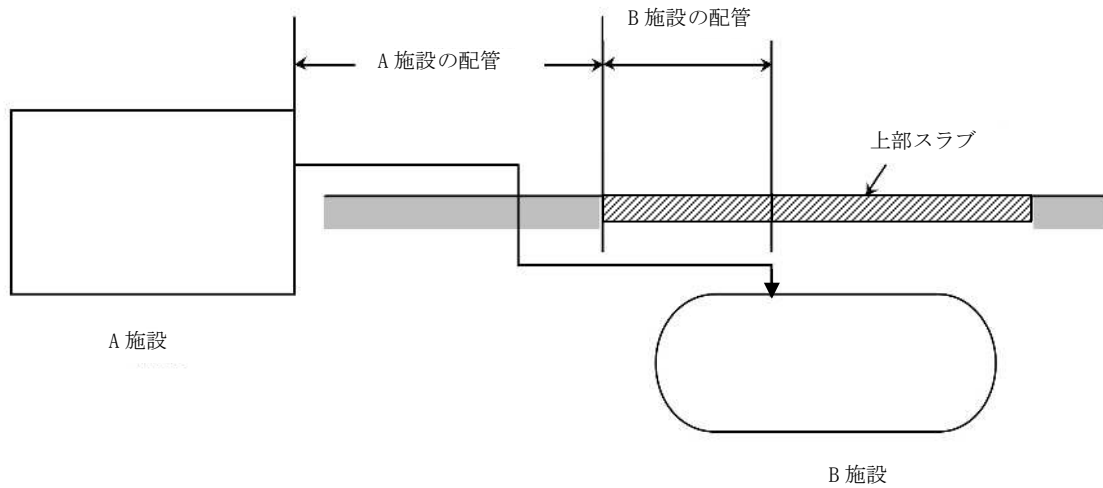
第 3 図

- (3) B 施設が屋内タンク貯蔵所である場合、当該屋内タンク貯蔵所のタンク室壁体直近の弁、フランジ等までを A 施設とする。



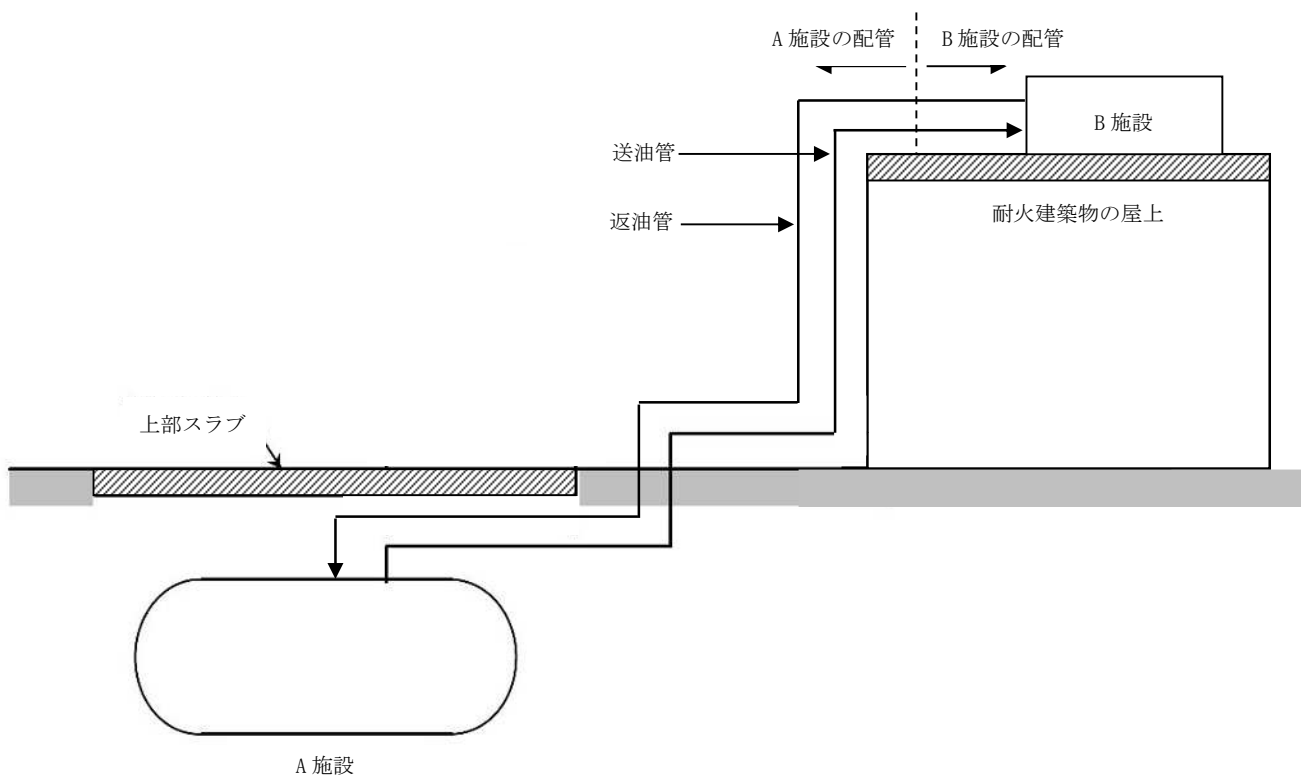
第 4 図

- (4) B 施設が地下タンク貯蔵所である場合、上部スラブ端部直近の弁、フランジ等までを A 施設とする。



第 5 図

- (5) B 施設が返油管を有する一般取扱所等である場合、B 施設の直近の弁、フランジ等までを A 施設とする。この場合は、施設管理上、返油管も A 施設とする。*

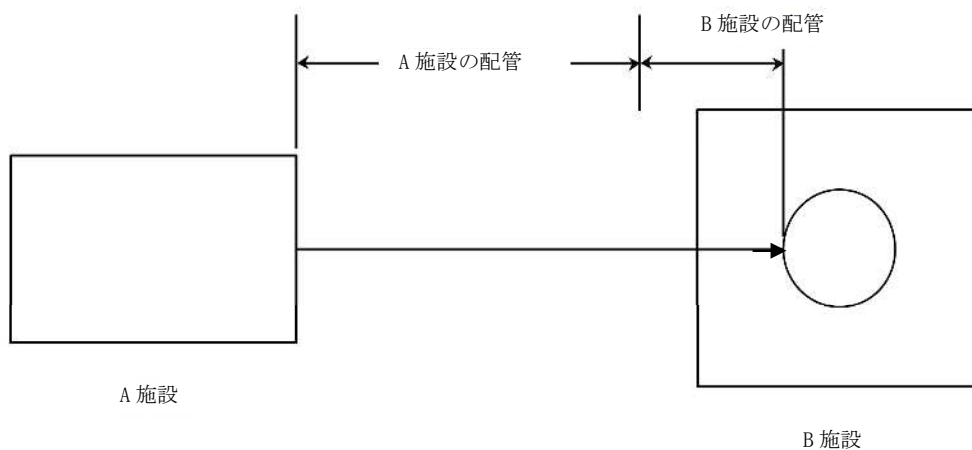


第 6 図＊

別記 1

2 政令危険物施設と指定数量未満の危険物施設相互間

B 施設が指定数量未満の危険物施設である場合、当該 B 施設の直近の弁、フランジ等までを A 施設とする。

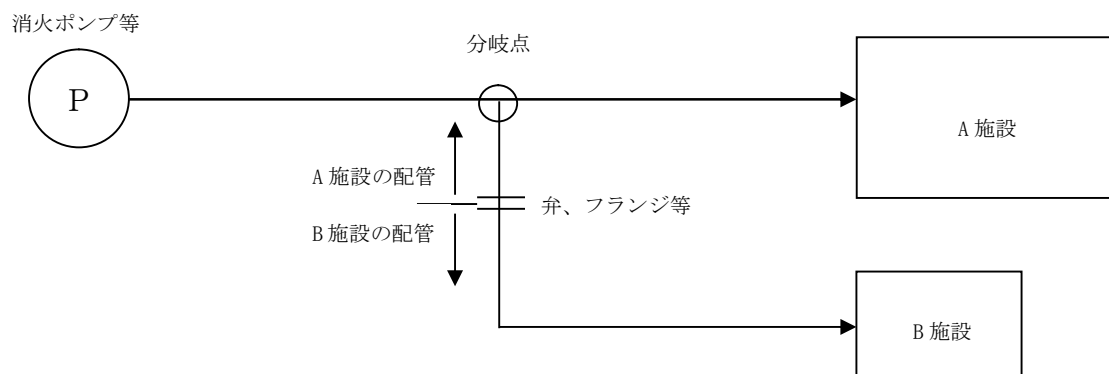


第 7 図

3 消火設備に係る区分

(1) 屋外タンク貯蔵所を除く危険物施設に係る区分

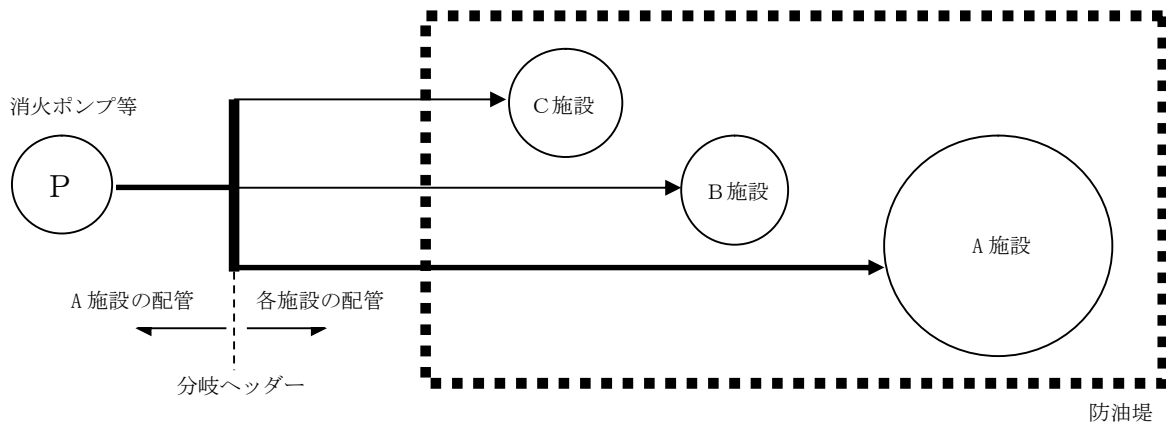
主たる製造所等（最大能力を要する製造所等をいう。以下同じ。）への消火配管を分岐させる場合、分岐点の直近の弁、フランジ等までを A 施設とする。＊



第 8 図＊

(2) 屋外タンク貯蔵所に係る区分

A 施設が主たる製造所等であり、ヘッダーにより分岐させる場合、消火ポンプ等（ポンプを含む消火設備）から消火ヘッダーまでは A 施設とし、分岐後は各施設とする。



第 9 図＊